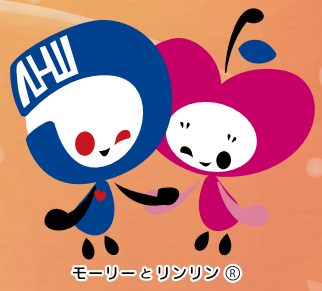
青森県立保健大学広報誌　活彩！保健大学だより

Campus Magazine

vol. 46
2020 秋



新しい生活様式での充実した学修を目指して

学部長
角濱　春美

前期はCOVID-19の感染予防のための様々な対策を立案し、実践を定着させることに取り組みました。後期は、前期に築いた対策をもとに、たいへん落ち着いた雰囲気でスタートしています。感染対策を講じつつも教育効果を高めるために、以下のような取り組みを進めています。

①非常勤講師の科目を中心に、webによる双方向性の遠隔授業を行っています。

②学生同士のコミュニケーションが必要な授業、技術実習、実験については、密を避け、飛沫や接触に対する感染対策を行いながら実施しています。

③臨地実習は、その重要性を理解し、実習を許可していただける病院・施設が増えています。臨地に赴く際は必要な感染対策ができるように各施設と教員が協議しています。場合によっては施設の変更、学内演習・実習への振り替えを行っています。

今後とも、学生や地域の方の協力を得ながら教育研究活動を進めていきたいと考えています。

あずまし寮 から こんにちは！

寮生のことば

寮長　関根（セキネ）　由郁（ユイ）

私たち「あずまし寮生」は日々楽しく生活しています。同じ学科の友人だけでなく、他学科の友人たちとご飯を食べたり、談話を楽しんだり、ショッピングに行ったりしていて常に笑顔が絶えない場所となっています。また、テストが近いときには共有スペースに集まって友人と一緒に勉強も行っています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、昨年度実施していたイベントもいくつか中止になってしまいましたが、9月に「浅虫遠足」を行うことができました。このイベントをきっかけにさらに寮生同士の仲が深まり、より楽しく寮生活を送ることにつながりました。このように、寮生活は学年、学科、フロア関係なく良好な関係を築き、楽しく過ごすことができる環境になっています。

浅虫遠足

寮生対象の後期オリエンテーション

注：食事中のため、一部マスクを外した写真となっております。

看護学科

佐々木（ササキ）　涼佳（スズカ）

青森県立保健大学学生寮「あずまし寮」に入寮してから、半年が経過しました。親元を離れ、様々な不安と緊張を抱えながら新生活をスタートした４月。最初は精一杯だった学校生活、寮生活にも徐々に慣れ、最近ではアルバイトも始め、忙しくも充実した毎日を送っています。

寮生活の良さはたくさん実感していますが、やはり同学科・他学科の友人ができ、仲を深め合えることが１番だと思います。困ったこと、大変なことなどを気軽に話せる存在が近くにいることはとても心強いです。テスト期間やレポート課題がある際には、団結力が高まります！(笑)

新型コロナウイルスの影響から、手指衛生の徹底や換気、対面での食事禁止など様々な注意喚起や制限が設けられています。集団生活である以上、個人責任が伴う為、それぞれが自覚を持って日々の生活を送っています。これからどのような日常が待っているのか予想もつきませんが、ルールをしっかりと守り、引き続き楽しい寮生活を送っていけたらと思います。

理学療法学科

鈴木（スズキ）　律杜（リツト）

私は、普段の寮生活を同じ学科の学生との勉強会や、他学科の学生も含めて放課後に買い物に行くなどして過ごしています。また、平日と土曜日の朝には点呼と共有スペースの掃除があり、規則正しい生活リズムを整える秘訣にもなっています。

今年度は新型コロナウイルスの影響があるため、より一層掃除や消毒、ソーシャルディスタンスにも注意を払っています。私は寮生活の楽しさは「他学科との交流」だと感じます。学科によって価値観やものの見方の違うことに気付かされると同時に、自分の視野が広がっていくことを感じられました。これは将来、チームで仕事をする際に必ず役立つと思います。これは寮生活でないと味わえない楽しさであると私は感じます。

社会福祉学科

岡部（オカベ）　駿（シュン）

寮生活では、学科に関係なく交流することが出来ます。そのため、他学科について知ることができるのはもちろんのこと、一緒に話したり、遊んだりすることが出来るので、楽しく過ごせると思います。また、先輩方も話しやすく、様々な情報を得ることが出来ます。

私は、部屋で音楽を聴いたり、勉強をしている時間が比較的多いですが、食事の際には、談話コーナーやキッチンで寮生のみんなと話したりしながら、日々穏やかに過ごしています。

現在はコロナ禍にあるため、様々なことに制限がありますが、食事の際は、対面にならないよう配慮するとともに、手洗いや消毒をこまめに行い、感染が拡大しないように生活しています。

栄養学科

松本（マツモト）　倖実（ユキミ）

私は学生寮での共同生活を通して、時間の上手な使い方を学ぶことができました。洗濯やシャワーなど、時間を決めて使用するルールがなければ、私はきっと洗濯機内に洗濯物を放置し、シャワー・お風呂もだらだらとしていたのではないかと思います。時間の制約があることは不自由に感じる部分もありますが、それがあるからこそメリハリをつけて生活できるのだと実感しました。

また学生寮では、勉強で不安なところがあれば同じ学科の寮生に相談して解決できたり、他の寮生から近くのおいしいお店や安いお店の情報を教えてもらえたりと、学習面・生活面ともに恩恵を受けているのだと感じています。

残り少なくなってきた学生寮での生活を、新型コロナウイルスを意識しながらも楽しく過ごしていきたいと思います。

イベント報告

納涼祭

■開催日：令和２年８月４日
■開催内容：保健大学 納涼祭「ねぶたがないと夏じゃない！」

新型コロナウイルス感染症により制限された生活の中、「ねぶたがないと夏じゃない！」という声から、学生が主体となって納涼祭を開催しました。

納涼祭は、事前に実行委員の学生が感染防止のための講義を受け、適切に実施するための考え方を学び、準備を行いました。

当日は、ワークショップ等の出店で盛り上がった後、目玉企画として「コロナウイルスを吹き飛ばせ」の願いを込めて地域の方が制作された「鬼花火」を運行しました。

勇壮なねぶたとねぶた囃子、そして学生たちの“ラッセラー”の掛け声が鳴り響き、多くの人たちが心を一つに元気で笑顔となる「心じゃわめぐ」（“ワクワクする”気持ちを表す方言）時間となりました。

参加者の声

☆入学してから初めて先輩方と深く交流を持てて嬉しかった。
☆跳人に参加して、とても思い出に残る体験ができた。
☆来年の「じょっぱり隊」に参加したいと思った。

注：新型コロナウイルス感染症に十分留意するとともに、熱中症対策等のため、一部マスクを外した写真となっております。

オープンキャンパス

8月9日（日）に「オープンキャンパス2020」を開催しました。猛暑にも関わらず、県内外から多くの方々にご来場いただき、キャンパスは熱気に包まれました。

オープンキャンパスは、保健大学を目指す皆さんにホームページや大学案内では伝えきれない教育や研究などを体験的に理解していただくため、毎年開催しています。

今年度は、完全事前予約による参加人数の制限、受付での検温、各ブースの入場制限など、新型コロナウイルスの感染症対策を行いながらの開催でしたが、各学科が目指す専門職の魅力や大学生活について、来場者が在学生や教員の話に熱心に耳を傾ける姿が見られました。

ソーシャルディスタンシングなど制限のある運営でしたが、アンケートでは「先輩からたくさん話を聞けて非常によかった」、「保健大学への興味や憧れが膨らんだ」などのコメントをいただきました。今年度も来場者の進路選択のきっかけ作りができた盛況なオープンキャンパスとなりました。

看護学科：最新式のシミュレーターでの看護体験の様子

理学療法学科：テーピングの巻き方を体験する様子

社会福祉学科：在学生による相談・懇談コーナーの様子

栄養学科：参加者の持ち物の衛生評価をしている様子

大学祭

今年の大学祭は、前夜祭も含めて10月9日（金）、10日（土）、11日（日）の3日間行いました。今年度はコロナ禍での開催となり、例年とは異なり、多くの制限がある中での開催となりましたが、無事に大学祭を終えることができました。

今年のテーマは、新型コロナウイルスによる自粛生活の鬱憤を晴らそうという意味を込めて「Make you happy 2020」とし、各サークルによる発表や出店、前・中・後夜祭を実施しました。来場者の検温やアルコール消毒、3密を避けた会場設置によって、新型コロナウイルス感染対策を十分に行った上での開催となりましたが、来場者の方々に大学祭のテーマどおり、青森県立保健大学から幸せを届けることができたのではないかと思っております。協力してくださった関係者の皆様本当にありがとうございました。

大学祭実行委員長
新留　温大

コロナ禍を超えて、新たなる挑戦と飛躍へのスタート　～大学院での学び～

コロナ禍という思いがけない状況の今日、大学院では対面形式とオンライン形式による授業を行い、大学院生の修学の機会が途切れないように努めています。さて、このような先を見通せない時代だからこそ、「さらなる専門知識と研究力を身につけたい」とお考えの皆様に本学の大学院をご紹介します。

（1）多職種との連携や専門分野を超えた学際的研究を身につけたい

「保健・医療・福祉政策システム」、「対人ケアマネジメント」、「基礎研究・実用技術」の３つの研究領域を設け、自分自身の研究テーマを持ちつつ、多職種との連携をより意識した学びを深め、健康課題を的確に解決できる能力を養成します。

（2）「がん看護専門看護師」の資格を取り、スキルアップしたい

県内で唯一のがん看護のスペシャリストの養成コースを開設しています。このコースでは、がん医療に関わる高度な実践能力を養います。

（3）社会人なので、働きながら学べる環境で学びたい

講義や演習科目については、自らの研究課題やキャリアパスに応じて柔軟に履修できるようにしています。社会人が働きながら学べるように土日や夜間の授業も開講しています。

研究室のご紹介

大学院の研究室では、どんな研究活動が行われているのでしょうか。一部をご紹介します。

保健・医療・福祉政策システム領域／リハビリテーションマネジメント研究室　教授 川口 徹

当研究室は、リハビリテーションのマネジメントをテーマに関連する様々な理論、概念、研究を学んでいます。在籍している２名の大学院生が毎週１回程度集まり、英文・和文の文献抄読を中心とした勉強会を行っています。現在は、リハビリテーションとヘルスリテラシーおよび生活や人生の質との関連について学んでいます。この勉強会には、理学療法学科の篠原博准教授、新岡大和助教も参加し、幅広い視点からのディスカッションを行い、学修を深めています。

文献抄読会でのディスカッション風景

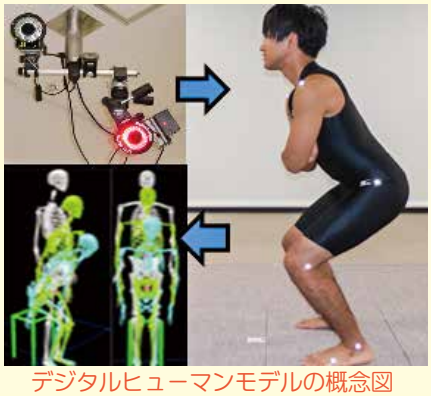
対人ケアマネジメント領域／学校栄養研究室　准教授 鹿内　彩子

当研究室は開設２年目の新しい研究室です。博士前期課程１年で学ぶ学生は、学部学生時に取り組んだ卒業研究「青森県の学校給食における郷土料理提供の実態」を、さらに深く、また、あらたな観点からも検討したいと考え進学し研究に取り組んでいます。現在、学校給食が郷土料理の伝承にどの様に貢献しているのか明らかにしていくため、関係の方々にご協力いただき調査を実施しています。研究結果が学校給食を通して、郷土料理が子どもたちに受け継がれていくための一助になればと考えています。その他に、カンボジアなど東南アジアの児童・生徒の健康と栄養の問題やその実態を把握し改善するための調査研究を、学校給食、食育の視点を持ちながら進めています。

カンボジアの小学校での調査の一コマ

基礎研究・実用技術領域／動作解析・生活支援学研究室　教授 佐藤　秀一

人間の動作を視機能軸（視覚情報を取得する力）・認知機能軸（判断する力）・生体力学機能軸（筋・骨格系による運動する力）の３要素から定義します（モデル化）。次に、三次元動作解析装置と視線計測装置を用いて、三次元空間での動作と注視点（どこを見ているか）を同時計測します。取得された生体情報をコンピュータ上に再現して、身体に生じるいろいろな現象を解析します。院生の研究テーマは健康増進を目的として「効果的なスクワット動作フォームの考案と最適化」「転倒防止のための歩行解析」「歩行時の方向転換における転倒要因の抽出」などです。人間適合性の高い（人間中心設計の）「生活環境」「福祉機器」「日常生活動作」の考案と実用化を研究方針として取り組んでいます。



デジタルヒューマンモデルの概念図

お知らせ　大学院担当教員の「研究室」紹介については、大学院の２次元バーコードでご覧ください ⇒

看護学科「地域定着枠（キャリア形成支援枠）」の新設について

（キャリア開発センター地域定着推進科）

人口減少・少子高齢化が進行する中で、医療や介護が必要になっても、できる限り住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域全体で支えることが必要になっています。

このため、本学では、これからの地域に求められる看護職員を、地域の病院等と連携・協力して育成することを目的に、令和３年度入学者選抜から、看護学科に「地域定着枠（キャリア形成支援枠）」を新設しました。

この「地域定着枠（キャリア形成支援枠）」では、卒業後、青森県内の急性期の病院を拠点に、回復期の中小病院、慢性期・在宅医療の診療所等を、一定期間、ローテート勤務することにより、それぞれの病院等の機能を知り、地域との連携に強く、地域全体の医療がわかる、総合力・実践力のある看護職員を育成します。今後の医療提供体制を見据えた看護職員の育成と配置が図られるなど、青森県の地域医療に貢献するものであり、地域の病院等と連携・協力して取り組んでいきます。

新たな時代に向けた研究と実践の推進 ～ヘルスプロモーション戦略研究センター便り～

「新しい生活様式」の中で、健康的で、楽しく充実した日々を過ごすことが出来ているでしょうか。新型コロナウイルス感染を予防するために、ほとんどの方が心身に何らかの影響を受けているものとお察しします。コロナ禍最中の４月に開設されたヘルスプロモーション戦略研究センターでは、今このような状況だからこそ、立ち止まって考え、研究とより良い実践につなげるための活動を行っています。例えば、地域の人々の生活と健康課題に着目し、大学院生の参画と多職種連携によるプロジェクト型研究を始めました。

- 保健医療福祉分野におけるヘルスコミュニケーションに関する研究
- 多層的予防介入による壮年期自殺予防プログラムの効果評価
  ーうつ病スクリーニングとケアマネジメントによるアプローチー
- 軽度要介護者に対する就業支援も見据えた自活促進モデルの構築
  ー活動寿命延伸プロジェクトー

また地域と連携した実践活動についても、「新しい生活様式」を踏まえた試行的な活動を進めています。

私たち専門職が語る言葉や行動が、患者様や対象となる方々にどのように受けとめられ、お役に立てるのかということは、専門職を育て、世の中に送り出す上でとても大事なことです。そのような視点から、本年度の公開講座は「保健医療福祉での素敵なコミュニケーションって、なあ～に!？　～あるある!？　身近な誤解とホントに大切なコト～」をメインテーマとしました。コロナ禍で中止となった講座に代わり、動画作成をし、大学祭にて上映会を開催しました。また、ヘルスリテラシー向上部が身体計測会を実施しました（写真）。

就職活動支援

キャリア開発センターでは、変化する採用動向を的確にとらえ、経験豊富なスタッフが、学生の皆さんの就職活動を全力で支援しています。

年１２回実施する就職活動セミナーでは、「自己分析」、「応募書類の書き方（志望動機）」、「面接の受け方」等、実際の就職活動に役立つ内容をタイムリーに取り上げており、学科毎に行う就職ガイダンスでは、本学の卒業生を講師にお招きし、現在の仕事や現場のこと、就職活動の体験談を聞くことができ、毎回、好評のイベントとなっています。

看護学科ガイダンス（令和２年７月２０日開催）

また、新型コロナウイルス感染症等により多様化した就職活動を支援するため、オンラインによる面接試験の受験等に利用できる「遠隔就職活動支援室」を整備しました。

この他にも公務員試験対策学内講座や個別相談等、学科や職種に応じたきめ細やかな支援を行っています。

遠隔就職活動支援室／通信機器と照明、身だしなみを整えるための鏡等を設置している。

国家試験対策（栄養学科）

模擬試験の開始前の様子

栄養学科では学生主体で国試対策を行っており、４名の国試対策教員がサポートしています。4年次4月に各ゼミから1名ずつ計11名の学生で編成される「国試対策プロジェクトチーム」を発足し、役割分担を行います。模試運営はすべて同プロジェクトチームが行い、適宜、国試対策教員が協力・助言します。昨年度は6月から翌年2月の間に7回の模試を実施しました。各回の模試結果は教員も共有し、合格ラインまであと一歩の学生には国試対策教員による個別面談を実施するなどゼミ担当教員と協力して支援を行っています。国試対策の自習室を設置し、学生が情報交換しながら学習する環境も整備しています。また、4年次「総合演習」では管理栄養士教育の総まとめとして国試対策につながる授業を行っています。

保護者等（後援会）懇談会

斎藤後援会長からの挨拶

今年度は大学祭初日の１０月１０日（土）に開催され、４８組６２名の保護者の皆様にご参加いただきました。

最初の全体会では、新型コロナウイルス感染症対策について学長から基本方針と対応が述べられ、続いて本学関係者から遠隔授業の導入等授業の現状や実習等への取り組み及び就職支援状況、学生の感染予防及び健康管理、経済的支援に関する諸助成、大学院の概要等について説明をさせていただきました。

次の学科別プログラムでは、学科の特色を踏まえた教育内容、学生生活及び就職に関する支援の状況等について、各学科の担当教員から詳細な説明をいたしました。

最後の個別相談会では、それぞれの学科の教員が保護者の皆様からのご相談を個別にお受けしました。

ご参加いただいた皆様との対話を通じて、今回の懇談会が保護者の皆様と本学との相互理解を深め、本学の今後の教育研究活動と学生支援のあり方について共に考える貴重な場となりましたことを深く感謝申し上げます。

全体会の様子（壇上は上泉学長）

発行：青森県立保健大学　広報委員会・青森県立保健大学　後援会

公立大学法人 AOMORI UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE
青森県立保健大学

〒030-8505
青森県青森市大字浜館字間瀬 58-1　電話 017-765-2000（代表）・FAX 017-765-2188 URL https://www.auhw.ac.jp/